

新たな成長の礎築く

前澤工業 宮川社長が年始あいさつ

前澤工業の宮川多正社長は仕事始めに当たる5日、同社会議室で年始あいさつを行った。昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策を講じ、出先事務所とも画面を通じて新年の展望を共有した。概要は次の通り。

◇コロナ禍終息への期待

昨年は、前年に引き続き世界中がコロナ禍に覆われた1年でした。現在オミクロン株が広がっていますが、ワクチンの追加接種で感染が抑えられ、重症化しにくいという知見や、新たなワクチン開発も可能ということから、出口が見えてきているとも言えます。

一方で世界経済は、巣ごもりおよびステイホーム特需が

す。脱炭素実現の過程で既存の技術、製品の置換が迫られ、それらを通じて新たな成長機会や投資機会が生み出されることから、経済の長期停滞を打破する起爆剤と期待されています。その一方で、グリーン

発生し、耐久消費財を中心に半導体の部品生産が追いつかないなど需給のミスマッチが起きました。今後はコロナ終息に伴い需要が抑えられてきたサービス（市場）へと需要の軸がシフトし、供給制約の緩和と経済の回復に期待したいと思えます。

地球規模での気候変動への対応として、21世紀中盤での実現へ加速するカーボンニュートラルが注目されています。

とする新たな課題に取り組みつつ、コロナ禍前に直面していた経済の長期停滞を脱却できるかが問われる重要な時期になるでしょう。

◇個性・能力を発揮できる職場環境こそ

そうした社会情勢の中、改めて当社グループが社会に存在する意義、パーパスをしっかりと考え、中長期戦略へと反映していきたいと考えています。

は「技術開発の強化」。開発プロセスの見直し、社内体制の再構築など、きちんと成果物に結びつく開発体制を目指したいと思えます。

第二は「社員一人ひとりの

個性が生かされている企業組織を目指す」。持続的な成長の実現には生産性向上が不可欠です。当社グループでもDXに関するプロジェクトを立ち上げて検討を進めています。が、継続的な生産性向上に繋げるには、新たな技術を使いこなせる人材の育成や旧来の業務プロセス再編といった人に頼る部分が大いと思えます。人材を生かす具体的なアクションとして、まずは社員の皆さん一人ひとりのキャリア形成支援を充実させたいと思えます。

と思います。特にシニア層には、自らが有する知識・経験を生かした後継者の育成や、中堅社員の負担を軽減しバックアップ体制を敷く、あるいは専門性を生かして業績に貢献するなどの役割を期待しています。社員教育については、研修機会の充実による全社的なITスキルの底上げや、eラーニングメニューを充実するとともに、意欲のある若手社員のキャリア形成の一助になるような社内研修を実施したいと思っています。

節目ごとに自分を見つめ、1年後、5年後、さらにその先の自分をぜひ考えてほしい

前澤の2年目を迎え、将来の礎をしっかりと固める1年としたいと考えています。



宮川社長